

■第16回代議員懇談会開催のお知らせ

標記懇談会を下記の通り、第72回年次大会会場(大阪大学)にて開催します。

代議員の方には別途、開催通知をお送りいたします。

なお、代議員ではない正会員の方が、オブザーバーとして懇談会に参加され、必要に応じ会長の許可を得て意見を述べられることは可能です。参加をご希望の場合、その旨を予め本会事務局宛にお申し出下さるようお願いいたします。

記

開催日時: 2017年3月17日(金) 17時30分~19時00分

開催場所: 大阪大学 豊中キャンパス 理学部F棟6階F608号室
(豊中市待兼山町1-1)

懇談テーマ:

1. 総会議案資料説明
2. 応用物理学会事務局移転への対応
3. その他

■第97回定時総会開催のお知らせ

下記の通り、総会を3月31日(金)に学会事務局の会議室にて開催いたします。

総会は一般社団・財団法人法上の社員である代議員の出席(委任状や議決権行使書によるものを含む)により開催されます。代議員氏名は昨年の会誌8号本会記事欄または本会ホームページ「理事/監事」のページを参照して下さい。

代議員の方には別途、開催通知をお送りいたします。

なお、代議員ではない正会員の方が、オブザーバーとして総会に参加され、必要に応じ会長の許可を得て意見を述べられることは可能です。参加をご希望の場合、その旨を予め本会事務局宛にお申し出下さるようお願いいたします。

記

開催日時: 2017年3月31日(金) 14時00分~16時00分

開催場所: 東京都文京区湯島2-31-22 湯島アーバンビル4階
一般社団法人 日本物理学会 会議室

議案:

1. 第73~74期理事の選任
2. 第73~74期監事の選任
3. 第73期会長の選定
4. 第73期副会長の選定
5. 2016年(1月~12月)貸借対照表および正味財産増減計算書の承認
6. 名誉会員の承認

報告事項:

1. 2016年(1月~12月)事業報告
2. 2017年事業計画、予算書
3. 公益目的支出計画実施報告書

■PTEP, PTP, PTP Supplement オンラインジャーナルURL変更のお知らせ

下記のオンラインジャーナルのサイトがリニューアルされ、URLが変更となりましたので、お知らせいたします。

PTEP: <https://academic.oup.com/ptep>

PTP: <https://academic.oup.com/ptp>

PTP Supplement: <https://academic.oup.com/ptps>

■第72回年次大会(2017年)の参加登録・講演概要集のWeb登録受付中

*取扱い期間: 2017年3月1日(火)~会期最終日正午

参加登録と講演概要集のWeb登録・事前クレジットカード決済払いの受け付けを行っています。ただし、受付でクレジットカードを提示し決済する方式ではなく、予めWeb上で決済を完了する方式で、次の特典があります。ご利用をお待ちしております。

- ・割引あり
- ・Webから登録し決済、現金不要。

詳しい申し込み方法は、会誌1月号会告、または次のホームページのURLをご参照ください。

<http://www.toyoag.co.jp/jps/>

■2017年秋季大会・講演募集掲載号

- ・4月号: 講演募集要項
- ・8月号増刊号: プログラム冊子

■2017年秋季大会の企画募集

2017年秋季大会(素核宇関係: 9/12-15宇都宮大学, 物性関係(領域2以外): 9/21-24岩手大学)の企画を募集します。招待講演、企画講演、チュートリアル講演、シンポジウムの位置付けは以下のとおりです。

1. 招待講演: すでに成果が挙げられた研究において、その研究の中心的な役割を担った研究者に一般講演よりも長い時間で行っていただく講演。
2. 企画講演: 一般講演よりも長い時間で行う次のような講演。
 - ・今後成果が期待される分野の研究者による新鮮なテーマ
 - ・国際交流を視野に入れた講演
 - ・各種受賞記念講演(若手奨励賞受賞記念講演を除く)
 - ・その他、会員にとって魅力的な要素をもった講演
3. チュートリアル講演: 他分野の研究者および大学院生等の初学者に対する解説を主とした講演。丁寧わかりやすく講義形式で講演していただくために、招待・企画講演よりも長めの時間設定が可能。
4. シンポジウム講演: ある一つのテーマに沿って、様々な角度からそのテーマを代表する研究者に一般講演とは違った時間枠でしていただく一続きの講演。

これらはいずれも開催する領域の多くの会員が興味を持つとされるものを前提といたします。

I. 招待講演, 企画講演, チュートリアル講演, シンポジウムの規則

1. **自薦提案の禁止:** 招待講演, 企画講演, チュートリアル講演を通じて, 提案者と講演者(推薦理由に掲げる論文の共著者を含む)が同一の提案書は審査の対象としない。
2. **重複登壇の禁止:** 招待講演, 企画講演, チュートリアル講演, シンポジウムを通じて講演登壇は1回とする(シンポジウムでの10分以内の「趣旨説明」や「まとめ」等の登壇は、ここでいう講演とはみなさない)。ただし、特別な理由がある場合に限り、領域委員会の審議および理事会の承認により許可することがある(この場合、重複登壇する登壇者の了解のもとで、関連する企画の提案者の連名で、重複登壇せざるを得ない理由を記した理由書を提出すること)。

3. **提案者の責務**：シンポジウム提案者は、10分以内の「趣旨説明」または「まとめ」の登壇者として加わることができる。また、当該企画が滞りなく開催されるよう座長の一人としての任を果たすとともに、概要集原稿や会期後の報告にも責任を持って協力することとする。また、総合討論やパネル討論等を設ける場合は、提案者は、パネリストとしてではなく、座長もしくは司会者という立場でのみ加わることができる。
4. **シンポジウムにおける所属重複規制**：シンポジウムは、特定グループの広報の場ではなく、重要なトピックについて広く議論を進める場であるため、同一グループの広報の場にならないよう以下の所属重複規則を設けている。
 - ・シンポジウムを構成する講演（「趣旨説明」、「はじめに」や「まとめ」等も含む）は、一つの所属に偏らないことを原則とする。
 - ・一つのシンポジウムで同じ部門（学科・専攻など）や研究室から2名以上の講演者が含まれる場合は、特別な理由がなければ認められない。（特別な理由とは、異なる研究グループに属し、実験と理論など専門が異なる場合などで、シンポジウム遂行にとって重要な講演者と判断できる場合とする。）
 - ・所属重複の特別な理由がある場合は、申込時の「内容説明欄」にこれを明記すること。
 - ・提案者と講演登壇者が同一研究室である場合も審査の対象としないことがある。
 - ・シンポジウムの講演者所属欄において所属を略称表記すると同一になってしまうは、違いがわかるように研究グループ名や研究室名まで記載すること。
5. **シンポジウムにおける占有時間規制**：素核宇領域においては、休憩時間を含めて原則として3.5時間に収めるものとし、4時間を超えてはならない。物性関係においては、休憩時間を含めて原則3.5時間以内とする。
6. **その他の約束ごと**：
 - 1) 招待講演、企画講演、チュートリアル講演、およびシンポジウムにおける講演の登壇者（およびプログラム記載）は1名に限るとする。
 - 2) 講演概要集の原稿はシンポジウムの「趣旨説明」や「まとめ」も含めて各登壇者2枚（1ファイル4MB以内）までとする。
 - 3) 提案者は、予め、講演者の方々に候補として推薦する旨の内諾を得ておく（重複登壇回避のため）。
 - 4) 海外在住の講演者の方については、原則として提案者を通して連絡を取るようにする（提案者以外の方が仲介者となる場合には、その旨ご連絡ください）。
 - 5) 前回の大会とあまり内容の変わらない招待講演、企画講演、チュートリアル講演ならびにシンポジウムは原則採択されない。

II. 招待講演・企画講演・チュートリアル講演、シンポジウムの提案方法

提案方法は、素核宇領域と物性領域とで異なります。下の記述に従ってそれぞれ、提案を募集します。

なお、提案申込書には

- 1) 見込まれる聴講者数、講演希望日程、講演不可日等の事項を必ず記入すること（領域によっては複数の企画を並

行して開催できないために講演希望日などの希望に沿えないことがあります。講演日やその他の希望がある場合は、必要に応じて、提案者は領域運営委員に連絡をとるようにしてください。

- 2) 登壇者の会員番号（非会員の場合はその旨を記入）と電子メールアドレスを必ず記入すること。

を徹底するようお願いいたします。

1. 素核宇領域

素核宇領域における招待講演、企画講演、チュートリアル講演、シンポジウムの企画は領域運営委員会を中心として企画された後、素核宇領域プログラム小委員会および領域委員会において提案・審議され、理事会において実施する企画が決定されます。

各領域運営委員の氏名と所属は、次のとおりです。

- 素粒子論領域： 太田 和俊（明学大法）
 山田 憲和（KEK）
 進藤 哲央（工学院大）
- 素粒子実験領域：東城 順治（九大理）
 樋口 岳雄（東大Kavli IPMU）
- 理論核物理領域：明 孝之（大工大）
 土井 琢身（理研仁科加速器研究セ）
- 実験核物理領域：伊藤 正俊（東北大サイクロトロン）
 谷田 聖（原子力機構）
- 宇宙線・宇宙物理領域：石徹白晃治（東北大）
 仙洞田雄一（弘前大院理工）

2. 物性領域

物性関係における招待講演、企画講演、チュートリアル講演、シンポジウムの企画を以下の通り一般会員から公募します。提案を希望する方は、以下の提案申込方法により、受付期間内にお申込みください。

1) 物性領域に含まれる分野

- 領域 1：原子分子・量子エレクトロニクス・放射線
 領域 3：磁性
 領域 4：半導体、メゾスコピック系・量子輸送
 領域 5：光物性
 領域 6：金属（液体金属・準結晶）・低温（超低温・超伝導・密度波）
 領域 7：分子性固体
 領域 8：強相関電子系
 領域 9：表面・界面、結晶成長
 領域10：構造物性（誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン）
 領域11：物性基礎論・統計力学・流体物理・応用数学・社会経済物理
 領域12：ソフトマター物理・化学物理・生物物理
 領域13：物理教育・物理学史・環境物理

2) 公募受付期間

2017年4月3日（月）～4月21日（金）

3) 提案申込方法

下記URLより受付期間中にお申込みください。登録が完了すると登録番号ならびにパスワードがメールで返信されますので、必ずご確認ください。登録番号、パスワードがお手元に届かない場合は、登録時に入力したメールアドレスが間違っている、或いは、正常に登録されていないことが考えられますので、必ずお問い合わせください。

受付期間中は登録番号、パスワードによって何度でも提案内容

を修正できますので、期間中に入力内容に変更が生じた場合は、速やか且つ正確に修正をお願いします。

URL: <https://www.gakkai-web.net/gakkai/jps/session/>

4) 提案する上での注意事項

前項「I. 招待講演, 企画講演, チュートリアル講演, シンポジウムの規則」に従ってお申込みください。

5) 採択の手順

各領域において領域代表と領域運営委員が提案書を検討後、物性プログラム小委員会および領域委員会において提案・審議され、理事会において実施する企画が決定されます。各提案の採否の結果につきましては、提案者に後日通知します。

■ Plasma Conference 2017 (2017年秋季大会領域2) の開催について

日本物理学会、応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、プラズマ・核融合学会との共同主催による Plasma Conference を3年に1度の頻度で秋に開催することが、物理学会領域委員会での審議を経て、2011年の理事会で承認されています。今年(2017年)はその3回目にあたるので、2017年秋季大会の領域2は、以下の通り、「Plasma Conference 2017」として、開催いたします。Plasma Conference 2017は日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会を加えた4団体の共催となります。

会議名称: Plasma Conference 2017 (略称: PLASMA2017)

主催: 日本物理学会、応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、プラズマ・核融合学会、日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会

場所: 姫路商工会議所(兵庫県姫路市下寺町43)

期間: 2017年11月21日(火)~24日(金)

趣旨: 各学協会等に分散して展開されているプラズマ科学の研究活動を総合的に把握し、21世紀におけるプラズマ科学の新たな発展を図るとともに、各学協会等におけるプラズマ科学の研究活動をさらに推進する。

HP: <http://www.jspf.or.jp/PLASMA2017> および領域2HP (<http://www.r2.div.jps.or.jp/>)

物理学を基軸にプラズマに関する理論・実験からその診断技術開発までを議論してきた日本物理学会、プラズマ応用科学を推進してきた応用物理学会、核融合に至る高温プラズマ、プラズマ壁相互作用、炉工学などに関する研究を推進してきたプラズマ・核融合学会、さらには各種プラズマとその利用に関して産学官連携を推進してきた日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会とが共同で Plasma Conference 2017を開催することで、プラズマ基礎科学と工学、応用科学と工学、産業応用の融合の飛躍的促進が期待されています。また、多岐に亘るプラズマ分野の研究が基礎から応用・実用化まで一貫して網羅される本会議は視野を広げる絶好の機会ですので、特に大学院生や若手研究者の皆さんの積極的な参加を期待しています。さらに、領域2の講演に参加していただいている他分野の方々におかれましても、Plasma Conference2017にも是非ご参加くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

領域2代表
上杉 喜彦